

論文題目（ゴシック体・14pt・センタリング）

—副題がある場合はダッシュで挟む・12pt—（不要の場合は削除）

摘要

摘要本文をここに記載する（300～400 字）。課題意識・目的・結果・社会的意義等を含めること。フォントは MS 明朝・10.5pt。英数字は半角・Century。句読点は（、。）方式。ここから本文の書式サンプルとなる。本文の規定枚数は A4・20 枚以内（図表・注・引用文献を含む）。

キーワード：キーワード1、キーワード2、キーワード3（3～5 個）

1. はじめに

本文の書き始め（MS 明朝・10.5pt）。注を入れる場合は脚注・文末脚注機能を使わず、本文中に「○○¹⁾」のように示し、原稿末尾の「注」欄に記載する。

引用文献を本文中で示す場合は（山田、2016：43）のように著者姓・刊行年・頁を記す。

1. 2 節の見出し

節の本文。見出しは MS ゴシック・10.5pt・左寄せ・全角洋数字。章→1. 節→1. 2 項→1. 2. 3 の形式とする。

1. 2. 3 項の見出し

項の本文。

2. 章の見出し

本文。執筆者自身の先行研究を参照する場合も「拙稿」「拙著」は使わず、氏名を記載すること。

（例）表 1 電子ジャーナル投稿使用フォントとサイズ

文章の種類	使用フォント	フォントサイズ
タイトル（主題）	MS ゴシック	14 ポイント
タイトル（副題）	MS ゴシック	12 ポイント
セクション（見出し 1）	MS ゴシック	10.5 ポイント

サブセクション（見出し 2） 図表のタイトル	jpg、jpeg、png の いずれの拡張子の図	
摘要 キーワード 本文 引用文献を含む注	MS 明朝（英数字は 半角で century）	10.5 ポイント

出処：

Sample figure

出処：

図 1 図のタイトルは図の下部に付す（MS ゴシック・10.5pt）

2. 1 節の見出し

本文

2. 1. 1 項の見出し

本文

3. おわりに

まとめの本文。

注

- 1) 注の内容（MS 明朝・10.5pt）。自由投稿の場合、執筆者氏名は本文・注・引用文献のいずれにも記入しないこと。別紙に氏名（日本語）・所属機関名・希望区分（原著論文 or 研究ノート）・論文題目（和文）・倫理規定の対応状況・連絡先を記載し、本原稿と併せて提出すること。
- 2) 注は脚注・文末脚注機能を使用せず、本文に番号を付したうえ、この欄にまとめて記載すること。

引用文献

引用文献は第一著者の母語発音ローマ字表記のアルファベット順、同一著者は刊行年順、同一刊行年は a・b・c を付記する。

《図書》 著者姓名、刊行年、書名、出版社

1. 中日教育研究協会編、2016、アジアの文化と教育、アジア出版
2. 山田太郎、2016a、中国の文化、アジア書房

《図書の一部》 著者姓名、刊行年、“章の見出し”、書名、編者名、出版社、頁

3. 木村太郎、2016、“中国の青い空”、アジアの文化と教育、中日教育研究協会編、アジア出版、43-76 頁。

《雑誌・紀要》 著者姓名、刊行年、“論文名”、雑誌名、巻号数、頁

4. 阿部太郎、2016、“中国の教養教育”、アジア文化研究、第 2 号、1-15 頁。

《Web サイト》 著者姓名、刊行年、“ページ題名”、サイト名、URL（アクセス日付）

5. Yamada Taro、2016、“Labor Market Outcomes”、ASIA Working Paper、No.37、
<https://cneducation.jimdo.com/workingpaper>（2016-7-13 アクセス）